

# 錦上添花

錦ヶ丘中学校  
学校便り  
6月3日発行 NO. 7  
文責 出崎 友英

## その人の可能性

最近、人から薦められて本を読みました。宮本延春さんが書いた「オール1の落ちこぼれ、教師になる」という題の宮本さんの自伝です。

小学校時代の宮本さんは、おとなしくて、体格は小さく、興味のあることや得意なことはなかったそうです。

そんな宮本さんの中学1年生の成績はいわゆるオール1でした。中学3年生の時でも漢字は自分の名前しか書けず、英語の単語はBOOKだけしか知らず、かけ算の九九は2の段しか言えない状況でした。



中学3年生の三者面談では、「あなたが行ける高校はありません。」と言われて、物を作るのが好きだった宮本さんは工務店に就職します。その工務店でも「何をやっているんだ!」としかられてばかりの毎日です。2年後にその工務店をやめた後、いくつもの職を転々となりました。

さらに悲しみが宮本さんを襲います。16歳の時にお母さんが、18歳の時お父さんがそれぞれ病気で亡くなり、宮本さんは天涯孤独の身となるのです。

その頃の宮本さんの心の支えといえば、少林寺拳法や音楽だったそうです。

宮本さんが人生の大きな転換期をおかえるのは、彼が23歳の時です。彼女に薦められて「アインシュタインロマン」という物理学のビデオを見た宮本さん。その内容に強い興味を覚えたことをきっかけに、彼の心に学ぶ意欲が芽生えます。

「物理学のことがもっと知りたい。」と思うようになり、小学校3年生の算数のドリルから勉強を始めました。分数のたし算のやりかたもわからなかった彼は24歳で定時制高校へ入学します。さらに物理学を学びたいと思った宮本さんは難関の名古屋大学を志します。

周りの多くの人たちは「それはとても無理だ。」と言います。しかし宮本さんは、仕事をしながら寝る時間を削って勉強に打ち込み、27歳の時ついに念願の名古屋大学に合格します。そして、大学院まで進み研究に打ち込んだ彼は、教師の道を志して母校の教壇に立つのです。

本の中で、宮本延春さんは君たち中学生に向けて次の言葉を投げかけられています。

「(かけ算の)九九もできなかった自分に比べて、君たちは可能性を持っている。勉強や進学のことだけを考えて生活できるのは今だけ。その生活は家族などの多くの人に支えられているのだ、ということをしっかり自覚して、『学ぶ』ことに打ち込んでほしい。そして、大切なことは目標を持つこと。その目標に向かって努力すること。その努力が『学ぶ』意味である。」

(参考・引用:「オール1の落ちこぼれ、教師になる」角川書店)

## 常任委員会がありました。

6月1日(水)の放課後、常任委員会がありました。本校の生徒会には12の常任委員会があり、毎月活動の振り返りや次の活動に向けて確認や話し合いをしながら常時活動に取り組んでいます。今日もそれぞれの常任委員会が集まって活動しました。文化委員会では、7月の七夕に向けて、七夕飾りの掲示物作成について話し合いをしていました。緑化委員会では、先日行ったグリーントイムの反省をそれぞれ出し合って確認していました。



▲ 文化委員会の様子

## お知らせ・お願いです。

○運動場のベンチが老朽化していたので、事務室の

○○先生に修理していただきました。座板を張り替えてきれいに塗装してあります。これまでも、学校のいろいろな物品をととてもきれいに制作したり修理したりしてもらっています。



○○先生、ありがとうございました。

○熊本大学教職大学院生の○○○○さんが、本校の保健室で昨年度に引き続き現場研修に取り組みます。養護教諭の実務研修や生徒との関わりを通して、不登校生徒への支援のあり方について実践研究をされます。今年度は毎週月・水・金曜日に来校されます。どうぞよろしくお願ひします。



「成功」の反対は「失敗」ではなく、「何もしないこと」だ。

「先生のコトバ集」より